

文型とは？

皆さんも知っているように、英文は一定の規則にしたがって、文を作る要素が置かれる順番が決まっており、その順番で文が表す意味が決まります。たとえば、love, students, those teachers といった要素を

Students love those teachers.

といったように並べた場合と、

Those teachers love students.

といったように並べた場合では意味が違いますね。（もちろん、前者が「生徒はそのような教師を愛している。」で後者が「そのような教師は生徒を愛している」です。）また、Those teachers students love.（「そのような教師を生徒は愛している」という順番で文の要素が並ぶこともあります。（詳しくは、後述の**チェックポイント3**—**プラス2**参照）

このように、英文では要素の並び方によって、その文の表す意味が決まっているのです。また、品詞によって、どんな要素になることができるかも決まっており、どんな要素を並べるかによって、その文の表す意味が決まります。たとえば、

He found the book easily.

He found the book easy.

は、似た文に見えますが、前者では **easily** という副詞を使っているために、「彼はその本をたやすく見つけた。」という意味になり、後者では **easy** という形容詞を使っているために、**easy** が「補語」と呼ばれる要素（詳しくは**チェックポイント5**参照）になり、「彼はその本が簡単だと思った。」という意味になります。

このように、英文は、品詞と語順によって意味が決まりますが、その形を大雑把に5つに分類したのが、文型です。

まず、各品詞の定義から確認しましょう。

[名詞]: 人、事物、現象などに対してつけられた呼び名

ex. teacher (教師)、mother (母親)、book (本)、river (川)、
headache (頭痛)、wind (風)、happiness (幸福)、
hunger (空腹) . . .

[代名詞]: 名詞の代用として用いられる語

ex. I, me, he, him, you, it, this, these, that, those . . .

[形容詞]: 名詞の性質、状態を説明する語

ex. happy (幸せな)、hungry (空腹な) difficult (困難な) . . .

[副詞]: 名詞、形容詞、動詞、以外の文の要素として添えられる語

ex. easily (容易く)、suddenly (突然)、extremely (極端に)、
recently (最近)、there (そこで、そこに)、especially (特
に)、also (また)、often (頻繁に)、therefore (従って) . . .

次に、文型の説明で使う記号の定義についておさえましょう。

S=主語

「何がどうする、何がどうである」の「何が」にあたるもの。**名詞、代名詞が主語になることができる。**Sは英語の subject(主語)の頭文字。

V=動詞

Vは英語の verb(動詞)の頭文字。

O=目的語

主語の行為、影響、関心の対象となるもの。**名詞、代名詞が目的語になることができる。**Oは英語の object(目的語)の頭文字。

C=補語

主語や目的語の性質、状態を説明する要素。**形容詞、名詞が補語になることができる。**Cは英語の complement(補語)の頭文字。

M=副詞的語句

S、V、O、C以外の要素として添えられたもの。Mは英語の modifier(修飾語句)の頭文字。本来、modifier には形容詞修飾も含まれるが、この本では**副詞的語句だけ**を表す記号として使う。

では、いよいよ文型の説明に入ります。しっかりマスターしましょう。